

都市日記

朗読劇「都市日記 慶應日吉キャンパス 冬」

演出 松田正隆（「マレビトの会」代表）

出演 「文学II」の学生たち

日時 2012年12月22日（土） 13時30分開場 / 14時開演

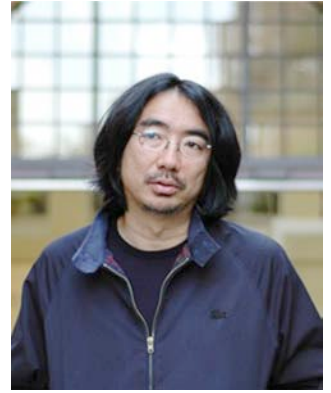


会場 慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎ギャラリー（東急東横線日吉駅下車すぐ） ※公開無料・予約等はありません。

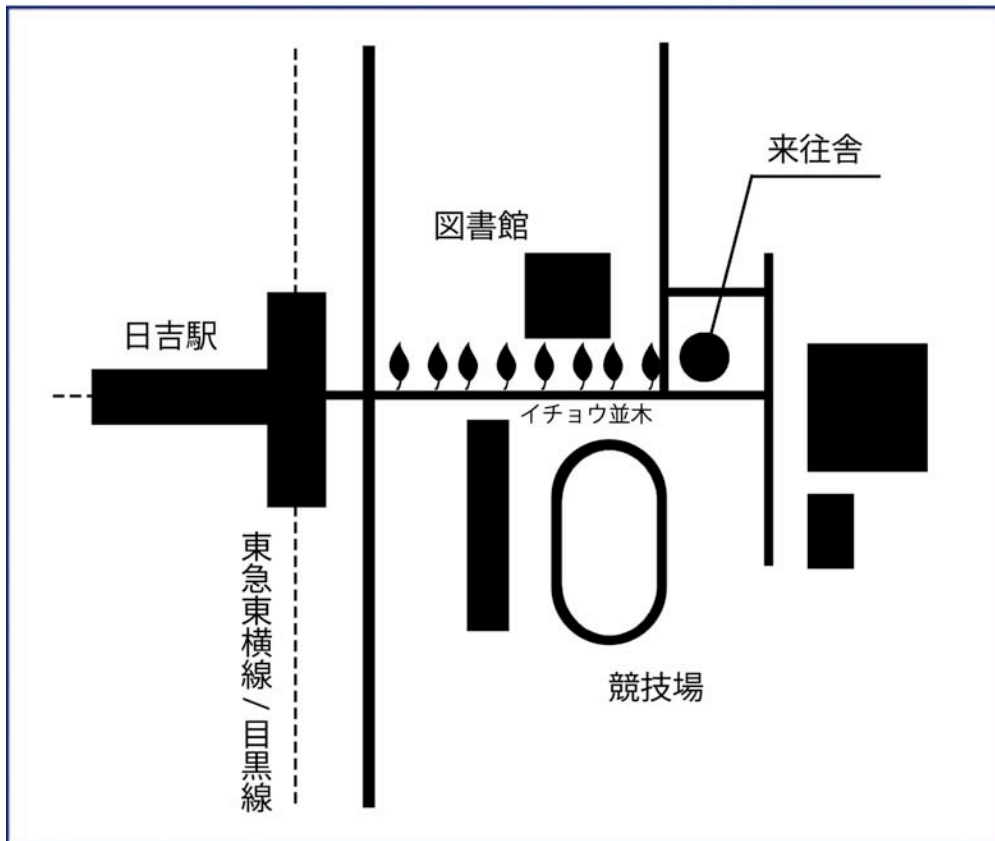
主催・問合せ 慶應義塾大学教養研究センター mail toiawase-lib@adst.keio.ac.jp tel 045-566-1151
協力 「マレビトの会」

◎ 松田正隆プロフィール

1962年、長崎県生まれ。90～97年まで劇団「時空劇場」代表を務め、劇作・演出を手がける。94年『坂の上の家』で第一回 OMS 戯曲賞大賞を受賞。96年『海と日傘』で岸田國土戯曲賞受賞。97年『月の岬』で読売演劇大賞作品賞受賞。黒木和雄監督作品『美しい夏キリシマ』では映画脚本も手がけたほか、『紙屋悦子の青春』は原作として映画化されている。04年5月舞台芸術の可能性を探る「マレビトの会」を結成。主な作品に、エジプト・中国・インド・日本で上演された『クリプトグラフ』（07年）、『声紋都市-父への手紙』（09年）、『PARK CITY』（09年）、『HIROSHIMA-HAPCHEON：ふたつの都市をめぐる展覧会』（10年）など、各都市に取材して創作する「都市日記」シリーズに着手。最新作は『アンティゴネーへの旅の記録とその上演』（12年）。



だいがくとしまでの地図▽



声を出して読むこと。

わたしたちは孤独で静かな読書を当たり前だと思いがちです。しかしこのような読書は歴史的には産業化された近代社会の産物なのです。

慶應義塾大学日吉キャンパスで開講している授業「文学Ⅱ～読書から朗読そして創作へ」ではあえてすべてのテキストを朗読し身体的フィルタを通すことで読むことや解釈することへの新たなきっかけとなる可能性を模索してきました。

この度、松田正隆さんをお招きして「都市」にまつわる学生自作のテキストを朗読劇として発表いたします。

学生たちの声から立ち上がる「見えない都市」の報告に耳を傾けてみて下さい。

「文学Ⅱ」担当 吉田恭子

■朗読劇「都市日記 慶應日吉キャンパス 冬」

演出 松田正隆（「マレビトの会」代表）

出演 「文学Ⅱ」の学生たち

スタッフ 中本章太・羽鳥嘉郎・新保奈未

■日時 2012年12月22日（土）13時30分開場／14時開演

■開場 慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎ギャラリー（東急東横線日吉駅下車すぐ）

公開無料・予約等は必要ありません。

開演とともにキャンパス内を移動しますので、時間にご注意下さい。

野外を含むイベントです。暖かくしてご来場下さい。